

栃木で生まれた品種は？



1 女峰

1985年（昭和60年）品種登録

冬の早い時期から品質の良い果実を多く収穫できる品種として育成されました。果実の形と色がきれいで味も良く、クリスマス頃から5月まで収穫できるなど、優れた多くの特徴があり、当時のいちごを代表する品種として東日本を中心に栽培された。



2 とちおとめ

1996年（平成8年）品種登録

女峰に代わる品種として育成されました。果実は女峰よりも大粒で甘みが強く、果肉がしっかりとしていることから、東日本を中心に急速に作付面積が拡大しました。現在、国内でもっとも多く栽培されていて、いちごの代表的な品種です。



3 とちひめ

2001年（平成13年）品種登録

果実が大粒で甘みが強い反面、果肉が柔らかくとてもデリケートな品種です。このため、いちご狩りや直売用の品種として栃木県内のみで栽培されています。栃木でしか味わえない幻の品種です。



4 なつおとめ

2011年（平成23年）品種登録

夏から秋の収穫に適した品種として育成されました。果実は、暑い時期でも日持ちが良く、味わいにすぐれています。日光や那須地方で栽培され、主にケーキ用のいちごとして出荷されています。



5 栃木i27号（スカイベリー）

2014年（平成26年）品種登録

果実が極めて大きく美しい果形から、高級贈答向けの新たな需要を開拓する品種として期待されています。独特のなめらかな食感で、香りが良く、ジューシーでまろやかな味わいを楽しむことができます。

